レッスン：SPA/NO.43

テーマ：円錐/一面ピラミッド

SPA43/KE8/FEB18/8

私の姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私たちは常に主、絶対、主の聖性によって抱かれています。

これまでのレッスンでは現在のパーソナリティーの部屋のなか、つまり現在のパーソナリティーの墓の中での様々なピラミッドの築き方を説明しました。説明したように、部屋は地上にある大きなピラミッドの下の地中にあります。現在のパーソナリティーは地上にある大きなピラミッドと同一の小さなものを築かねばなりません。この小さな四面ピラミッドは同一体ですが、勿論サイズは異なり、ずっと小型です。

現在のパーソナリティーがするべき努力とは、ある程度までこの小さな四面ピラミッドをマスターすることです。大きなピラミッドに比較するとそれは小さなピラミッドですが、完全にマスターすることは不可能です。この小さなピラミッドのなかであなた方は三面ピラミッドおよび五面ピラミッドの築き方を学びました。三面ピラミッドは「絶対英知・絶対善・絶対パワー」という「絶対存在」の三つの主な特質を現わしています。

人が部屋にいる間、つまり死者と共にいる間に三面ピラミッドを完全にマスターすることは可能でしょうか？不可能です。現在のパーソナリティーが大きな四面ピラミッドのなかに立つようになっても、それは不可能です。言い換えれば、人はたとえ自己実現に到達しても現在のパーソナリティーである間は、三面ピラミッドを完全にマスターすることは不可能であるということです。

このピラミッドをマスターするということは「生それ自体」だけに可能なことです。今現れとして「生それ自体」と言いますが、その現れが神に戻るとき、その時初めてその「生のスパーク」は「絶対生それ自体」の特質を完全に現わしている、と言うことができるのです。

それでは五面ピラミッドについてはどうでしょうか？五面ピラミッドは「生それ自体」 のものでしょうか？このピラミッドは「生」にとって役立つでしょうか？今ここで、「生」

というとき、それは「魂のセルフ・エピグノシス」を意味します。とんでもありません。五面ピラミッドは現在のパーソナリティーのためのものであり、現在のパーソナリティーが現在のパーソナリティーの自己実現に到達したとき、現在のパーソナリティーは五面ピラミッドを完全にマスターすることになります。

四面ピラミッドのなかに現在のパーソナリティーはもう一つのピラミッド、円錐である一面ピラミッドを築くと説明しました。このピラミッドは他の二つのピラミッドをある程度マスターした結果となります。五面ピラミッドについては前に説明したように、ピラミッドとしてのこのシンボルは五感および五つの超感覚を意味します。そして勿論、何回も述べたように現在のパーソナリティーは無知のなかにいても五つの超感覚を無意識的に使っています。

現在のパーソナリティーが考えを現す時、五つの超感覚を使用してそれを行います。ファンタジーですら五つの超感覚を使い、記憶も同じです。勿論、現在のパーソナリティーは意識的にサイコノエティカル体を使用していないので、五つの超感覚を意識的には使用していません。

現在のパーソナリティーがこのピラミッドの底面にフォーカスする時、それは現在のパーソナリティーはまだ自分を表現する際に、二元性であるリアリティーを表現する際に（なぜなら、二元性の表現なくしては、人間はこのバイブレーションのなかで自分が存在することすら理解することができないからです）、五感を使用していることを意味します。真理の探究者がすべき努力とはこの小さなピラミッドの頂上に登ろうとすることです。登ると言いましたが、私たちはこの小さなピラミッドのなかに立っており、そのピラミッドの高さは私たちの肉体の高さよりも少し高いだけです。

Page2

それでは誰が登るのでしょうか；肉体でしょうか？とんでもありません、意識が登るのです。つまり五つの超感覚の使用を通じてゆっくりと徐々に自分、セルフを現すのです。勿論、このプロセスは非常にゆっくりとしたものです。小さなピラミッドのなかで今それが達成可能でしょうか？現在のパーソナリティーがその味を味わうことはあっても、答えはノーです。

さて前回のレッスンで、ある程度まで一面ピラミッドの築き方を学びました。その努力は完結したでしょうか？答えはノーです。なぜなら、今のところあなた方が築いた一面ピラミッドは三面ピラミッドの回転の結果だからです。皆さんは三面ピラミッドを回転させました。しかし、それでは十分ではありません。あなた方は五面ピラミッドをも回転させねばなりません。五面ピラミッドの築き方を学びましたが、それら両方のピラミッドが四面ピラミッドのなかにあります。

そして説明したように、中心から各頂点、角への長さは等しくなります。もし五面ピラミッドを回転させると、三面ピラミッドと五面ピラミッドは共通の底面を持つようになり、高さもまったく同じです。もし現在のパーソナリティーが両方に同時にフォーカスできるなら理想的ですが、生憎今のところそれは不可能です。それ故に、あなた方はまず三面ピラミッドを回転させて円錐を築いたわけです。今晩は五面ピラミッドを回転させます。二つの円錐ができ、一つの円錐をもう一つの円錐のなかに持ってこなければなりません。将来は勿論、あなた方は三面および五面ピラミッドを同時に回転させることになります。これは将来のことですが。

前に述べたように二つのピラミッド、あるいはつまり三つのピラミッド、四面、三面、そして五面ピラミッドはあなた方がそれを創造するとき、築くとき本当に実在するのです。しかし、一面ピラミッドに関しては、今のところそれはこのバイブレーションの世界のものではありません。それは「イデア」として留まります。なぜなら、それは思考・行動の結果としての あなた方の現れの上昇の結果でなければならないからです。そして勿論、探究者がある程度この一面ピラミッドをマスターするようになると…つまり現れのあるレベルに到達すると…探求者は四面ピラミッドの開口部から部屋の外に出ることができるようになり、大きな四面ピラミッドの中に立って意識的に自分、セルフを表現している自分を見いだすようになるでしょう。なぜなら、そのパーソナリティーはいわゆる意識的意識のセルフ・エピグノシスを現わし始めるからです。

次のレッスンからは、これら様々なピラミッドの中で行うワークについて、もっと詳しい知識とエクササイズを提供しましょう。これまで提供したものは何であれ、総体的、一般的な知識でした。本当のワークはまだ与えられていません。しかし、本当のワークのためには、エーテルの特質をある程度マスターしている必要があり、また総体的にこれまであなた方に与えたエクササイズをもある程度マスターしていることが必要です。

それではこれから一面ピラミッドを築く、あるいはそれを完成させましょう。

**エクササイズ　SPA 43/エクササイズ１**

目を閉じて静かに座り、心を騒がせるもの全てを解き放ちます…あなたは純白に包まれており、自分の形の境界を感じます…あなた方は同時に純白の五芒星のなかで守られています…

今あなた方は小さな四面ピラミッドのなかに立っています…これはあなたが部屋のなかに築いた小さな四面ピラミッドです…あなたの前にはこのピラミッドの一つのサイドからの白の輝きがあります…右には赤の輝き…後ろには水色の輝き…左にはウルトラ・バイオレットの輝きがあります…小さなピラミッドの中には四つの輝きがあります…あなたはこれらの輝きからの影響に対して自分をオープンにする必要があります…

それでは、あなたがすでに築いた他のピラミッド、四面ピラミッドのなかにある三面ピラミッドが実体を得ているのを見ます… 今あなたはそれに触れていません…あなたが認識できる唯一の輝きはあなた自身の純白の輝きおよび五芒星の純白の輝きだけです…同じように三面ピラミッドの輝きの影響に対して自分をオープンにします…あなたの前には三面ピラミッドの二つのサイドによってできた角があります…あなたは三面ピラミッドの底面の中心に立っており、正面にはその一つの角があります…それでは三面ピラミッドが左から右へ回転するのを見ます…初めは回転はゆっくりですがその速度は次第に加速していきます…そして今、回転速度が上がってサイドはもはや見えません…円錐が見えます、角はありません…三面が一面の円錐に見えるようになると、もはや速度はそれ以上加速されません…そのままにしておきます…なぜなら、それ以上加速すると、左から右ではなくて右から左に回転しているという幻想を抱くようになるからです…

さて、今あなたは三面ピラミッドが回転してできた一面ピラミッドのなかにいます…三面ピラミッドのサイドからの輝きはもはやサイドから内側へと放射されるのではなく、外へと放射されています…そしてあなたはその輝きのバイブレーションにフォーカスしてそれを認識することができません…

さて、今あなたは再び四面ピラミッドのなかにだけ立っています…円錐および三面ピラミッドはもはやありません…再び四面ピラミッドのなかにいて、その四つのサイドから様々な輝きがあなたに触れています…そして今、五面ピラミッドが実体を取り、あなたは今五面ピラミッドのなかに立っています…そして四面ピラミッドからの輝きは五面ピラミッドのなかには浸透してきません…

今、五面ピラミッドのサイドからの輝きは、底辺から頂上まで同じではありません…それは同じ白の輝きなのですが、底辺付近の輝きは鈍く、頂上に近づくにつれて輝きが増していきます…

そして今、このピラミッドが左から右へと回転し始めます…あなたの前の角を見てください、なぜならあなたの前にある角が右へと動くからです… 今あなたが五面ピラミッドを回転させています…初めは回転の速度はゆっくりですが、次第に加速されていきます…今や速度は上がり、もはやどのサイドも見えなくなりました、見えるのはあなたを取り巻く一面だけです…あなたは今や一面ピラミッド、つまり円錐のなかにいます…

そこから放射される輝きは前とは異なります、五面ピラミッドの時は底辺近くの輝きは鈍く、頂上に近づくにつれて輝きが増していましたが、今はどこも同じです…

非常に明るい純白の輝きがありますが、その光は内側へと放射されるのではなく、外側へと放射されています…

今あなたは再び一面ピラミッドのなかにいます…この一面ピラミッドに対して自分をオープンにしてそこからの影響、魅力を受け入れます…この主の愛の現れが、あらゆる方向に、あなたの全ての同胞に到達するよう願います…

私たちはつねに主、絶対、主の聖性によって抱かれています。

 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

私たちは今説明する必要があります。あなた方は三面ピラミッドを回転させ、また五面ピラミッドを回転させて円錐を築きました。そしてあなた方にはわからなくても、円錐はただちに一つになります。レッスンのなかで説明したように、底面は全く同じで、高さも同じです…そして両方とも小さな四面ピラミッドのなかにあります。あなたが両方を築いた瞬間に、それらは一つとなります。

それでは質問に移ります。

**質問**：三面ピラミッドの円錐の方が円周は小さくなるのでしょうか？なぜなら、五面ピラミッドの円錐では…

**Ｋ**：底面は全く同じで、高さも全く同じです。

**質問**：しかし、そこを通って回ります…

**Ｋ**：説明しましょう…それは全く同じです…頂上に関しても高さは同じです。回転させれば同じです。三面ピラミッドであろうと五面ピラミッドであろうと、回転させることによって創造される円錐は同じです。重要なのは中心から角、それぞれの角までの距離です。もしその距離が同じで、高さも同じなら違いはありません。もしそれらを回転させれば全く同じ円錐が創造されます；そうではありませんか？実際にやってみればわかるでしょう。

あなた方は三つのポイント、つまり角にいるのではなく、中心にいてピラミッドを回転させています。ピラミッドはあなたの周りで回転します。あなたは真ん中にいて、ピラミッドはあなたの周りを回転します。

**質問**：三面ピラミッドと五面ピラミッドの高さは？

**Ｋ**：全く同じです。

**質問**：円錐とも同じ高さですか？

**Ｋ**：そうです。なぜなら、円錐はそれらのピラミッドを回転させた結果だからです。そしてそれらのピラミッドは完全に部屋のなかにあります。

**質問**：普通は回転するときには、軸、回転軸がありますが。

**Ｋ**：軸はあなたの身体、あるいはあなたの背骨ということもできます。あなたは自分の周りで回転するのを見ます、あなたは回転しません。前と同じように、目の前で回転しているのを見ています。それが自分の周囲で回転するのを見ます。後の段階になると、同時に全ての方向を見、フォーカスできるようになりますが、今はまだできません。あなたは自分の前を見ています、目の前の角度、アングルが右へと動き、サイドが目の前にやってきます、次に別の角がやってきます、あなたはこれらの動きを目の前で見ます。もし下を見ると、ピラミッドの底面が動いているのが見えます、しかしあなたは動いていません。そしてサイドの代わりに底面として円が形成されるのが見えます。そして回転する両方のピラミッドによって形成される円は同じです。そしてこの円は小さな四面ピラミッドのなかにあります。

高さは自由ですが、同じ高さにします。

**質問**：私たちは底面にフォーカスするのですか、それともただサイドにフォーカスするのですか？

**Ｋ**：違います。そうする必要はありません。実際、下にはフォーカスしません。

**質問**：五面ピラミッドを回転させるというエクササイズの目的は何なのですか？円錐を創造しますが、なぜそうするのですか？その目的は何ですか？

**Ｋ**：なぜなら、実際、現在のパーソナリティーは五感を使用して自分、セルフを表現しているからです。私たちは現在のパーソナリティーが五感を使うことから次第に解放されてゆき、徐々にゆっくりと五つの超感覚をより意識的に使うようになることを求めています。そうすることによって、現在のパーソナリティーはもっともっと「生の特質」から自らを現わすようになることでしょう。そして「生の特質」のひとつは意識をあらゆる方向に広げることです。

**質問**：それではそれが思考・行動の仕方とどのような関係があるのですか？

**Ｋ**：その人の気づきが上昇するということは、もっともっと「生の特質」から自らを表現するということであり、もっともっと自分の真の本質を現すということです。それが生じるのです。

**質問**：なぜピラミッドに従うのですか？

**Ｋ**：いいですか、以前のレッスンで説明しましたが、他のいろいろな哲学では、特に過去においては、気づきを上げるための努力をする代わりに、自分自身の肉体を回転させて一面ピラミッドを作ることによって効果を得ようとしました。そうすることによって彼らは自分たちが創造したエレメンタルに同調したのです。あるいは、彼らがすでに前に行った他のエクササイズの結果として同調に成功したのです。それによって彼らは何らかのパワーや能力を現しました；本当に現わしたのでしょうか？違います、そのパワーや能力は彼らが回転することによって同調したエレメンタルが行ったのです。現代でもそれらのメソッドを使用している哲学がありますが、それらは完全に魔術であり、それらのメソッドはテクニカルなものです。それらは気づきを上げるためには全く役にたちません。

**質問**：例えば、気づきを上げるためのワークを本当に意識的に行い、同時にそれらのメソッドも一緒に行う場合には…

**Ｋ**： いいですか、その場合には気づきの上昇のためのいかなる努力も無駄になります、完全に無駄になるでしょう。

**質問**：しかし、過去に努力した人は、過去に到達したパーソナリティーの成長を通じて今多くを現らわしています。彼らもまたその種の実践を行ったのではないでしょうか？なぜなら、ある時期にはそれらのレベルを通過しなければならなかったのですから。

**Ｋ**：そうです、しかし何であれ過去は過去です。彼らはそこからレッスンを学びました。そして今彼らは自分たちが何に成功したかを知っています。勿論、彼らとは私たち全員ですが、私たちはそれらの実践を通じて例えばあるレベルに到達しました。そして私たちは比較し、そこから教訓を得たのです。勿論、それらのメソッドが人間にとって役に立たなかったとは言いません。勿論役立ちました。それらのレッスン、経験によって人間は徐々にゆっくりとより高いレベルの気づきへと成長しました。なぜなら、それらの「否定的な」体験でさえ役立つからです。痛みの経験でさえ人間の助けになります。それらはレッスンであり、今でもそれらのメソッドはこの地球上の多くの人々にとってレッスンなのです。しかし、ある人々にとっては、それらのメソッドはもはや役に立ちません。

　　啓発に向かう絶えざる動きがあり、私たちは決して後ろに後退することはありません。それ故に、私は「何であれ過去のものは過去のためのものです 」と述べたのです。重要なことは何であれ今この瞬間にあることです。私たちは今に生きる必要があります。勿論、過去においては、私たちは魔術、マジックを行ってきました。決してマジックを行わなかったと言える人など誰もいません。

　　ですから、その時までは…それはあなた方次第ですが、その時ができるだけ早くあなた方に訪れるのを願っています…あなた方が大きな四面ピラミッドの中に立つようになる時までは、忍耐が必要であり、何であれ信念として現らわされたものを証明することができません。自分が正しい道の上にある、あるいは自分が行っていることは正しいという内側からの声、直感によるべきです。しかし、信じてください。あなた方は経験に基づく知識を得るようになり、その時には何であれ自分が行っていることが正しいものであると確信することでしょう。

**質問**：それでは経験的知識は四面ピラミッドのなかに立つようになるとき初めてスタートするのですか？

**Ｋ**：そうです、前に述べたように、それは唯一、現在のパーソナリティーを助けるためです。

**質問**：…でもそれは経験的知識ではないですよね？

**Ｋ**：それは経験的知識ではありません。違います。あなたがこれらのリアリティーに触れることはありません。あなたはこれまで話されたことを聞いてきましたが、そのなかのどれほどを個人的に体験しましたか？

説明しましょう。もし何かを聞いてもぴんと来なければ、胸に響くことがなければ、それはあなたの今の現れの周波数にマッチしていない、ということです。その場合、その人、その特定のパーソナリティーはそれについていくことができないでしょう。言い換えれば、そのパーソナリティーはそれを聞いても助けにならないということです。そのようになっています。それ故に、（＊エレブナに）人々はやって来て、また去っていき、長い間留まる人は僅かなのです；長い間留まる人々は何であれ自分たちのフィーリング、直感をとても大事にし、ずっと留まります。何故でしょうか？なぜなら、彼らの現れの周波数がある程度マッチするからです。それゆえに私たちは多くの魔術、マジックを含むシステムでさえある程度評価します。なぜなら、それらのシステムでもある種の人々が道を見いだす助けになるからです。彼らは自分たちで経験をする必要があります、原因・結果の法則の結果を被る必要があるのです。それが彼らのレッスンとなります。

**質問**：それでは、自分のフィーリング、直感ということですが、しばしば他のバイブレーションに同調したいと渇望する人々、あるポイントに自分が到達したと感じることを望む人々がいます；そういった人々を操作し、操ってある特定の道に引っ張りたいと考える人がいます。そのような人は、そのようなことを望む人々に自分はこのような存在であるという確信を抱かせようとします…例をお話しましょう、例えば「過去生であなたは私の息子だった、私の娘だった」などです。そう言われた人は心の中で確かにそうだという確信を抱くようになります。ですから、このような場合の直感、確信とあなたの言う直感、フィーリングをどのように区別したらよいのでしょうか？

**Ｋ**：過去生については、いかなる現在のパーソナリティーも現在のパーソナリティーとしては関係していません。自分は過去においてあの現在のパーソナリティーであった、あの人物であったと述べる時、それは間違っています。実際、現在のパーソナリティーとしての私は過去には存在していませんでした。確かに、現在私として転生している生のスパークは過去には過去のパーソナリティーとして転生していました。それが実際に生じることであり、現在のパーソナリティーを過去にフォーカスさせることとは違います。彼らがそのようなことを話す時、そのようなナンセンスなことを唱えることによって罪を犯しています。過去は過去のものです。もし私があなたに何かを信じ込ませようとするなら、私はそれに成功するでしょう。私はあなたにフォーカスし、あなたは犬のように私に従うようになるでしょう。

**質問**：…私の知りたいポイントは、人は直感、本能、内側からのひらめきといったことをどれぐらい信頼すべきか、ということです。なぜなら、それら全ては気づきのフィルターを通過しているからです。どの程度信頼したらよいのでしょうか？

**Ｋ**：私が先ほど話したことは今あなたが述べたケース、例と全く異なります。確かに、ある人が過去生でのワークであるセンターを刺激し、（それはアンバランスなのですが）あらレベルに到達し、あるパーソナリティーが不快な状況に陥るというケースはあります。そのような場合、内側からの声、内側から出てきたなどと解釈しますが、それは現在のパーソナリティーを多くの悪い経験へと導くことでしょう。もし人がそのような状況に直面したなら、もう一度現在のパーソナリティーの三つの体をバランスのある状態、調和の取れた状態に戻すことです。

EREVNA/SPA43/KE8/F18/98